

平成26年（2014年）12月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片岡 史朗
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(1) 当第2四半期の連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）の当社経営環境は、国内市場の一部分野で4月の消費増税による反動減が見られましたが、当社業績への大きな影響はありませんでした。また、注力しているアジア市場は、総じて景気の拡大テンポが穏やかになってはいるものの、中国をはじめ底堅い経済成長が継続しました。特に、先進国経済が米国を中心に回復軌道にあることを受け、アジアからの先進国向け輸出の持ち直しも当社業績に貢献しました。その結果、当社を取り巻く経済環境は徐々に明るさを取り戻しつつあります。

こうした中、2012年度からの3ヵ年の中期経営計画『GS-III』の主要戦略の一つである「海外事業の拡大のための基盤整備」の一環として、ベトナム現地法人の体制強化や、同国での加工拠点（織・編・仕上・縫製）の新設・拡充等を進めると共に、拡大を目指す上海現地法人の更なる体制整備を進めております。

また、円安の進行に伴う諸コスト上昇に対し、コスト削減や価格改定を進めました。

当第2四半期の連結経営成績につきましては、売上高は587億4千1百万円（前年同期比57億3千2百万円、10.8%の増収）、営業利益は17億6千9百万円（同5千万円、2.9%の増益）、経常利益は18億1千2百万円（同6千万円、3.5%の増益）、当期純利益は11億7千4百万円（同7千9百万円、7.2%の増益）となりました。

【連結業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成26年4月～平成26年9月)		前第2四半期累計期間 (平成25年4月～平成25年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	58,741	-	53,009	-	+5,732	+10.8%
粗利益	4,469	7.6%	4,192	7.9%	+276	+6.6%
営業利益	1,769	3.0%	1,719	3.2%	+50	+2.9%
経常利益	1,812	3.1%	1,751	3.3%	+60	+3.5%
当期純利益	1,174	2.0%	1,095	2.1%	+79	+7.2%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の1社であり、同社の連結累計期間は平成26年1月1日から同6月30日となっています。

【単体業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成26年4月～平成26年9月)		前第2四半期累計期間 (平成25年4月～平成25年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	58,166	-	52,508	-	+5,657	+10.8%
粗利益	4,271	7.3%	4,020	7.7%	+251	+6.2%
営業利益	1,682	2.9%	1,639	3.1%	+43	+2.6%
経常利益	1,721	3.0%	1,667	3.2%	+53	+3.2%
当期純利益	1,107	1.9%	1,033	2.0%	+74	+7.2%

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

【繊維関連】(増収、増益)

売上高は215億円。前年同期比6億円(3.0%)の増収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け高機能素材の販売が拡大しました。また、学校体育衣料向け販売も概ね堅調に推移し、増収となりました。
- ユニフォーム分野は、白衣用途のマーケットが好調に推移した上に、機能素材の採用が進展したこと、およびワーキング用途での流通在庫調整が一段落したことを受け、増収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、濃染加工や遮熱など新規開発の機能素材の採用が進展しましたが、アパレルでの在庫調整の影響が継続しました。
- 機能原糸は、<ミントバール>がタオル用途で拡大し、また<クラカーゴ>も新規採用が進展し、増収となりました。
- 上海現地法人では、現地日系企業向け縫製品ビジネスが、テキスタイルとの連動による一貫体制の評価も加わり、販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え顧客との素材開発の取組みが貢献し、売上高は順調に拡大しました。現在、ベトナム現地法人との協働により、現地日系企業向けに素材の現地調達・現地加工を可能にする一貫供給体制の構築を急ピッチで進めており、スポーツ用靴資材では現地加工品の販売がスタートしました。
- 産業資材は、自動車用ゴム資材が拡大した他、高強力繊維<ベクトラン>、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンや水溶性PVA繊維<クラロン K-II>が輸出を中心に拡大しました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、主力のランドセル用途が顧客の在庫調整が一段落したことから販売が回復し、増収となりました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内競合が厳しい中カウンタークロス用途が伸長し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】（増収、増益）

売上高は372億円。前年同期比51億円(15.9%)の増収。

- 溶剤等化学品関連は、国内、輸出とも順調に拡大し、特に中国では新規顧客獲得により大きく増収となりました。
- 環境関連資材含むその他の分野は、膜製品や活性炭の販売が拡大しました。

（3）平成 26 年 12 月期の連結業績予想（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

当社の経営環境は明るさを取り戻しつつあるとはいえ、世界景気の減速見通しや、日本経済の消費増税後の景気回復のもたつき等の下振れ観測の高まりに加え、円安基調による原燃料価格・諸コストの上昇、一部国・地域での政情不安等々の懸念材料があり、予断を許さない状況にあると認識しております。

このような中、顧客や海外拠点との連携を通じ、中国を中心とするアジア市場の底堅い成長を積極的に取り込むための施策に注力し、当期連結会計年度の業績は年初公表から増収増益を予想しています。

尚、クラレグループは、平成 26 年 6 月 20 日に開催されました株式会社クラレ定時株主総会での「定款一部変更の件」の決議を受けまして、決算日を 3 月 31 日から 12 月 31 日に変更いたしました。従いまして、第 2 四半期連結累計期間は、日本が平成 26 年 4 月 1 日～同 9 月 30 日、上海が平成 26 年 1 月 1 日～同 6 月 30 日と従来通りであります。通期連結累計期間は、日本が平成 26 年 4 月 1 日～同 12 月 31 日、上海が平成 26 年 1 月 1 日～同 12 月 31 日となります。

（億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表 (対前期比)	850 (+5.1%)	25 (±0.0%)	26 (±0.0%)	16 (±0.0%)
今回公表 (対前期比)	880 (+8.8%)	27 (+8.1%)	27 (+5.5%)	17 (+6.2%)

<注記> 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上